

専修学校フォーラム2020 DX時代における IT活用に関する課題と今後の展望

日本マイクロソフト株式会社
クロスインテリジェンスセンター

吉田 雄哉

自己紹介

日本マイクロソフト株式会社
クロスインテリジェンスセンター
吉田 雄哉(パクえ)

SIer, 製造業の情報システム部門
SaaSベンチャーの起業を経て
2015年1月より日本マイクロソフトへ

- 一般社団法人クラウド利用促進機構
総合アドバイザー
- CompTIA Subject Matter Expert
- 文部科学省委託事業 人材系プロジェクト



流れ

- ▶ デジタルトランスフォーメーションに至る流れ
- ▶ デジタルトランスフォーメーションとは何か
- ▶ 何が求められているのか

デジタルトランスフォーメーション(DX) に至る背景

DXの背景 ～ デジタル化の波

ハードウェアの進化

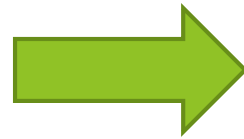
- ▶ ネットワークの発達
- ▶ 機器類の進化



- ▶ ビッグデータ
- ▶ IoT

ソフトウェアの進化

- ▶ オープン化
- ▶ サービスの台頭



- ▶ 計算能力の獲得が容易に
- ▶ 変化の波が激化

DXの背景 ～ プラットフォームの変化

- ▶ オンプレミスとクラウド
- ▶ クラウドとクラウド(マルチクラウド)

コンピューターリソースが提供される
ビジネスモデルの変化

- 技術的には大きな変化ではない
- 「サービス」という形態をどのように活用するかという話
- より特徴を活かした取り組みができるかが重要となる

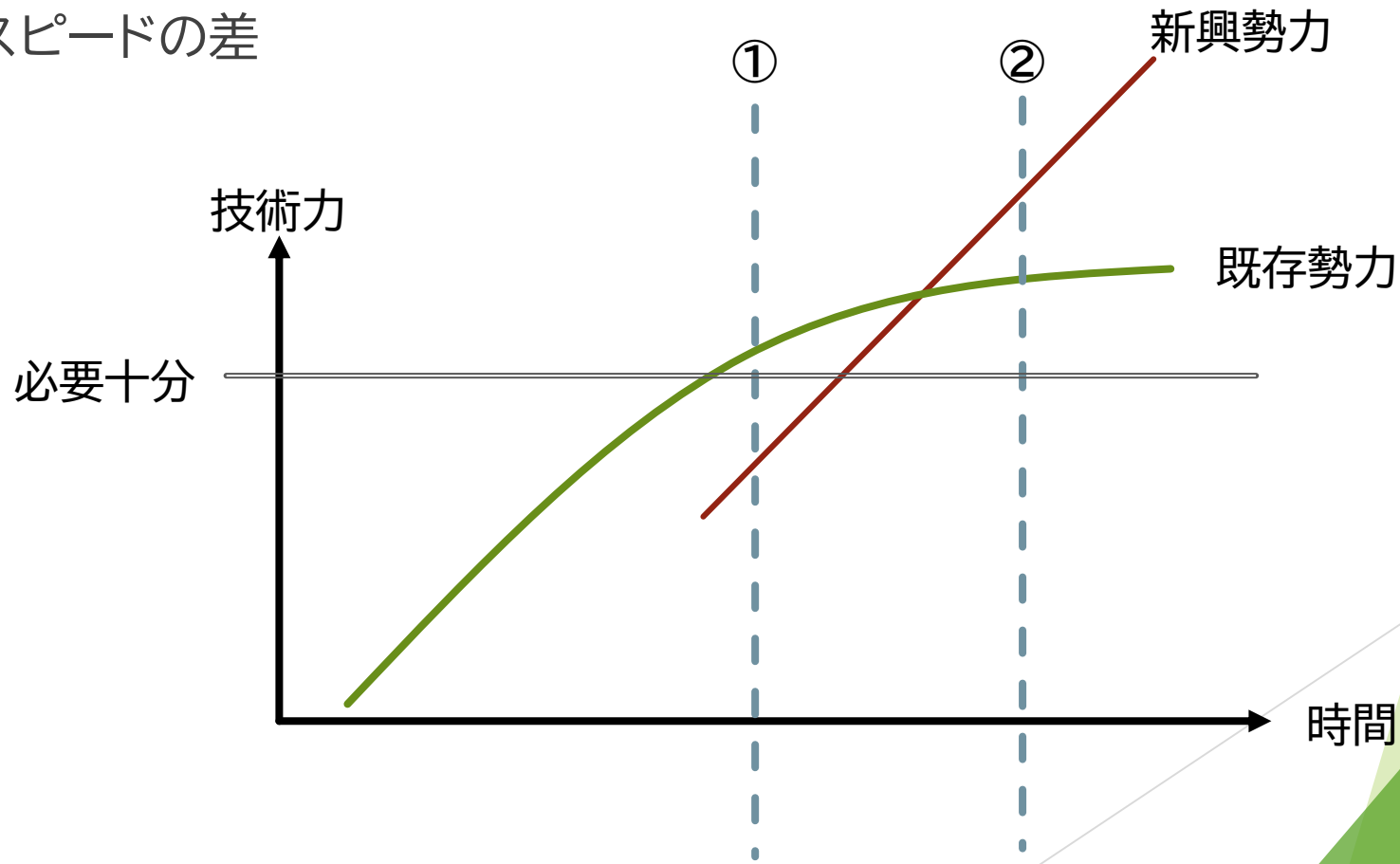
DXの背景 ～ 新しい技術の台頭

プラットフォームの変化が新しい技術、潮流を生み出す土壌となる

- ▶ ハードウェアの限界突破が作り出す世界
 - ▶ “5G”：通信速度が向上することによる恩恵
- ▶ ソフトウェアが作り出す世界
 - ▶ “AI”：クラウド上にデータが集まり、よりインテリジェントな処理が可能に

DXの背景 ～ デジタルディスラプション

- ▶ 新興勢力が既存勢力をデジタルの力で乗り越える
 - ▶ デジタル技術の活用の差
 - ▶ スピードの差



DXに至る背景

- ▶ デジタル化の波により、ICT活用が前提となる
- ▶ プラットフォームが変化し、動かす場所もさまざまに
- ▶ より多くの力を使えるようになり、新しい技術が生まれ大衆化するまでの速度が劇的に上がりつつある
- ▶ その結果、新しい仕組みへの変化の速度が速くなっている

デジタルトランスフォーメーションと 課題

デジタルトランスフォーメーションとは

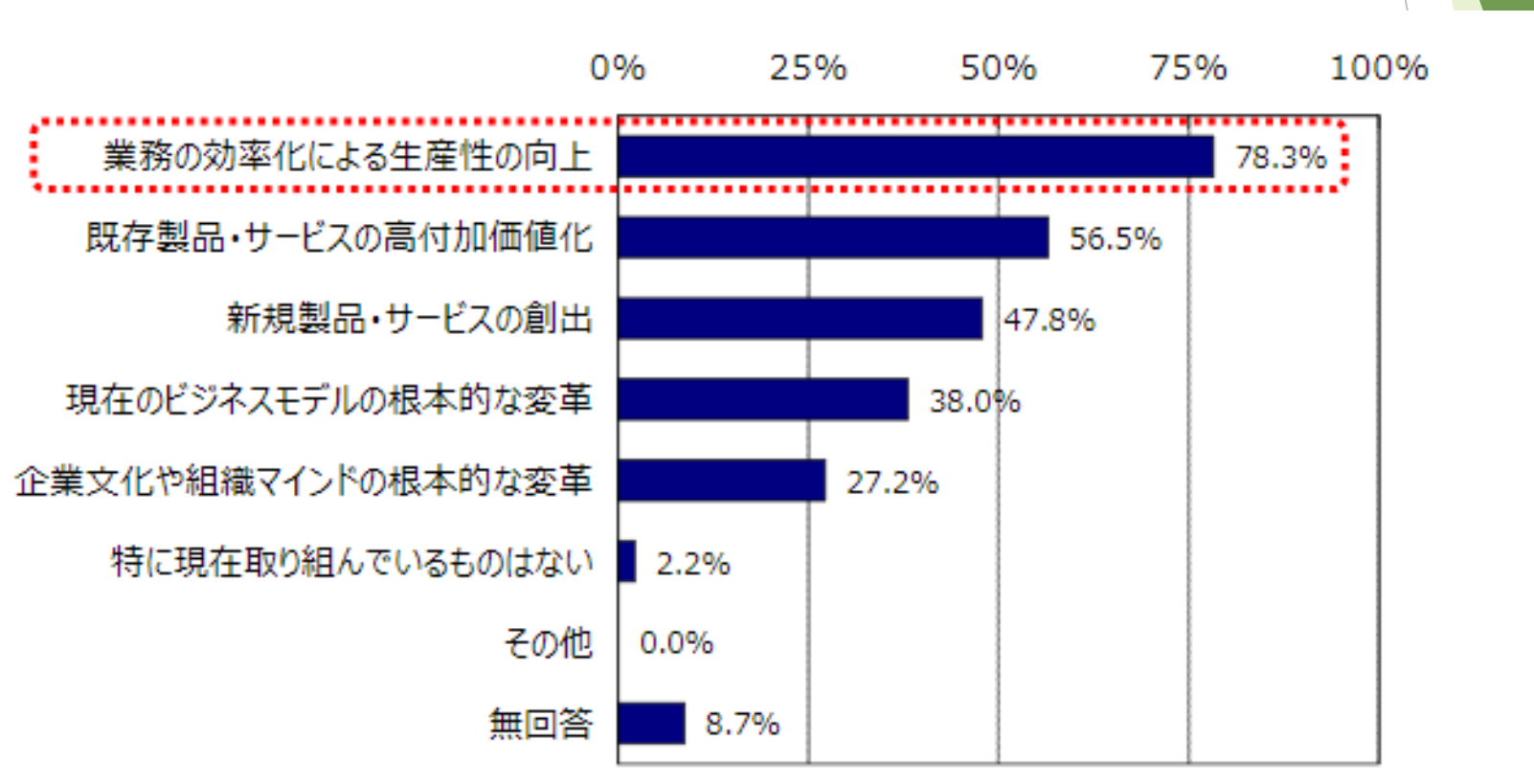
デジタル技術を活用すること

- ▶ 活用した結果として、新しい製品やサービスを生み出す
- ▶ 新しい価値を生み出すことで競争力を高める
- ▶ 活用してビジネスモデルを変えていく

国内企業の DX の現状:業務プロセスの改善が主流

現在の主流は「業務の効率化による生産性の向上」

DX の本来の目標である「新規製品・サービスの創出」は半数程度



図：現在取り組んでいるDXの内容

日本特有の状況

- ▶ IT人材の3割がユーザー企業にいる
 - ▶ 企業内のシステムは減ったことがあるか
 - ▶ 新しい人員は増強されているか
 - ▶ 無駄な仕事を減らしているか

どう考えても、楽になる要素がない
つまり、デジタルの力を活かしている企業は非常に少ない

現状をまとめると・・・

- ▶ コスト削減、効率化を目指した取り組みばかり
- ▶ 新しい技術を取り入れる余裕がない
- ▶ デジタル技術を活用できる土壌がない

DXへの取り組み方と意識

デジタル化

業務効率化への取り組み
業務プロセスの改善

コストダウンがテーマ
(コストセンター)

デジタル
トランスフォーメーション

全社的な観点でのデータ活用

新しい価値を生み出す源泉
(バリューセンター)

デジタル化





手紙

記す



運ぶ



発生元



影響先



入力



送る

処理

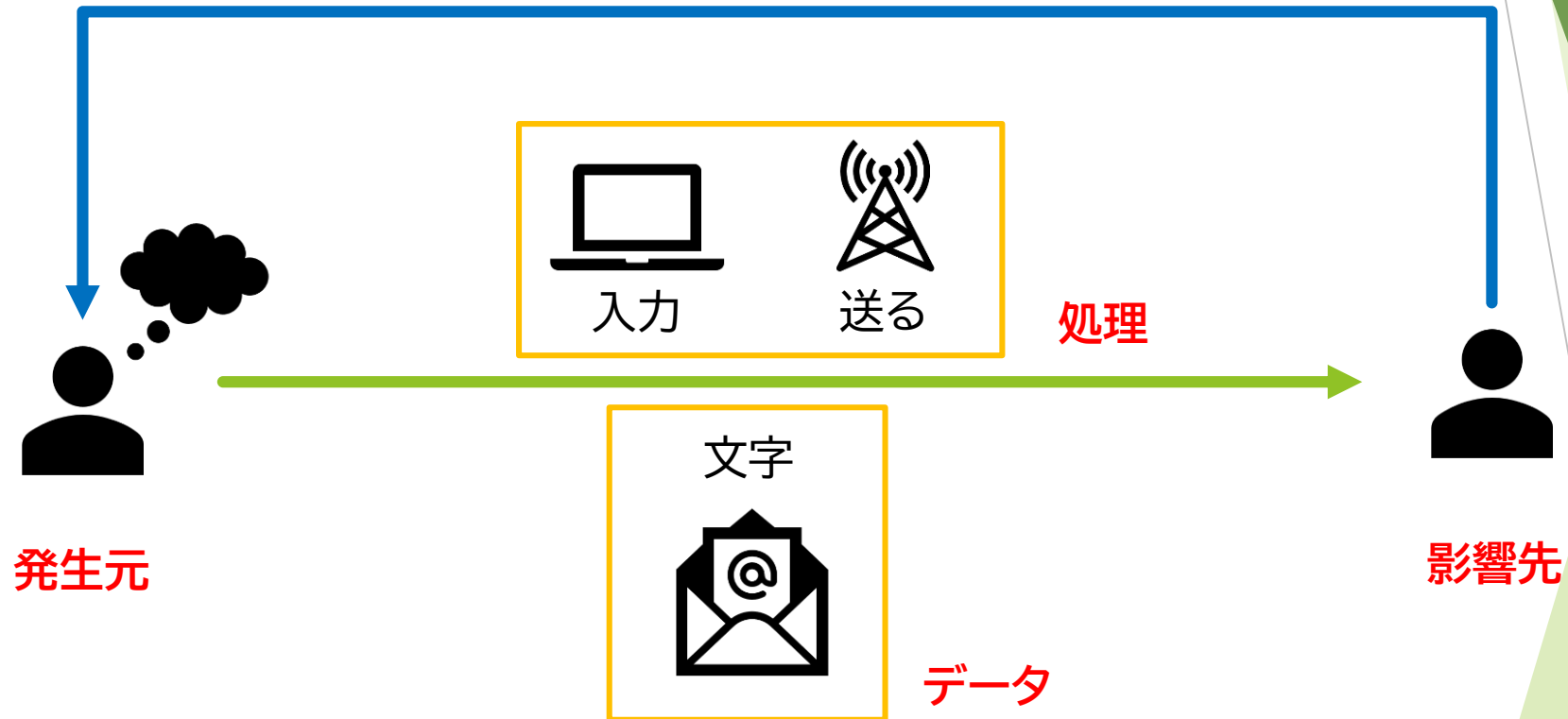
文字



データ

フィードバック

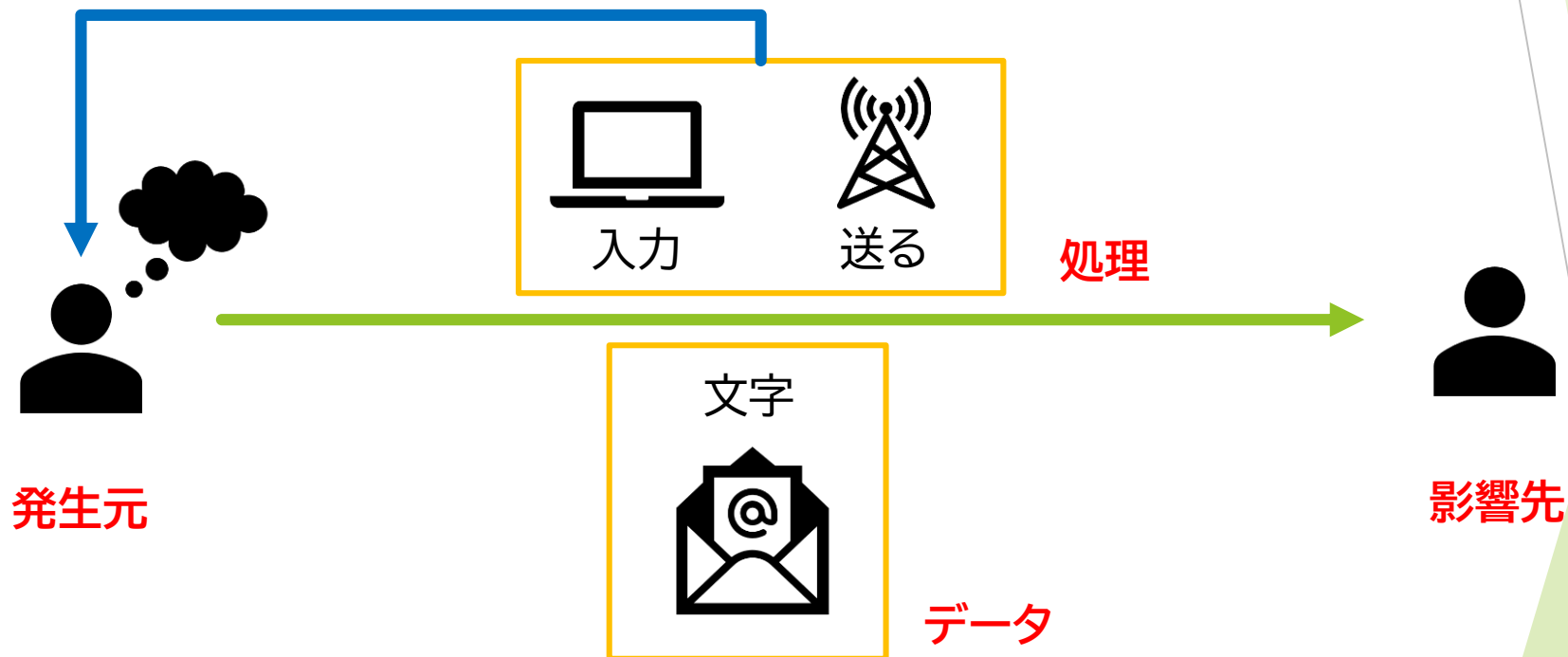
“送信済み” “既読”



フィードバックは影響先が発生元へ影響をするこ

フィードバック

“送信済み” “既読”

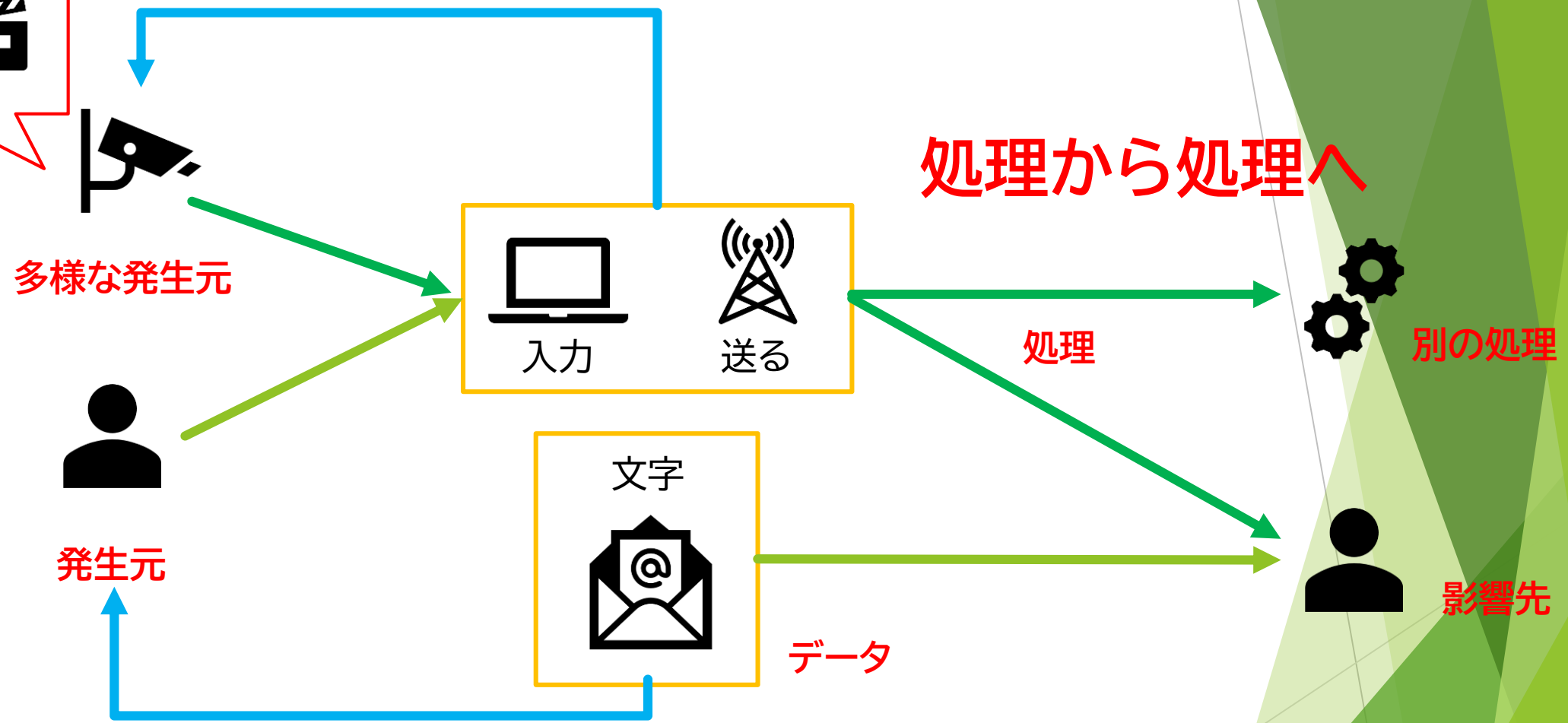


手紙よりメール、メールからメッセージへ

音声・画像・動画



インテリジェンス



“類似メール” X件送りました”

データによるフィードバック

Data



引き出す

加える

Intelligence

レコメンド(推薦)

レコグナイズ(認識)

プレディクト(予測)

ディテクト(検知)

クラスタリング(分類)

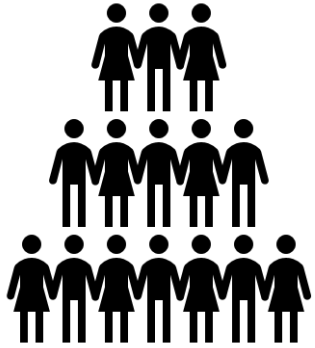
パターン分析

相関分析

技術的な側面に求められる力

- ▶ 本質的な部分をとらえられるか
 - ▶ どういう技術だと言えるのか
- ▶ 価値を考えられるか
 - ▶ なぜ必要か、どう使うと良いか、誰の何に効果があるのか

「人」にもとめられるもの ～ 成功体験



- ・ 新しい取り組みをして、成果を感じることに
- ・ 正解を探す探索的な活動
- ・ プロジェクトを推進する力

目標を定め、手段を選び、必要な学びを行い
取り組み、結果を踏まえて、次へ進めること

人的な側面に求められる力

- ▶ 仮説をたて、検証し、取り組みを続けること
 - ▶ アジャイルや、リーンといった変化を受け入れる方法論
それらを体験したことがあること
- ▶ コラボレーション
 - ▶ 「いつでも、どこでも、誰とでも」というマインドセット
 - ▶ 相手の長所を活かすことにフォーカスする

育成に関して感じること

- ▶ 徹底的に基礎知識を学ぶ機会是与えられない
- ▶ 新しい技術を教えることよりも、新しい技術を身につける術を体感してほしい
- ▶ 社会に合わせるというよりも、揃っている世代だからこそできることがある
- ▶ 絞り込むことが必要
日増しに教養の範囲が広がっており、専門性を持つことが難しくなっている
- ▶ 教える側のアップデートに対する取り組み

